

駿府城跡天守台発掘調査現場見学会

平成 28 年 10 月 22 日 (土)

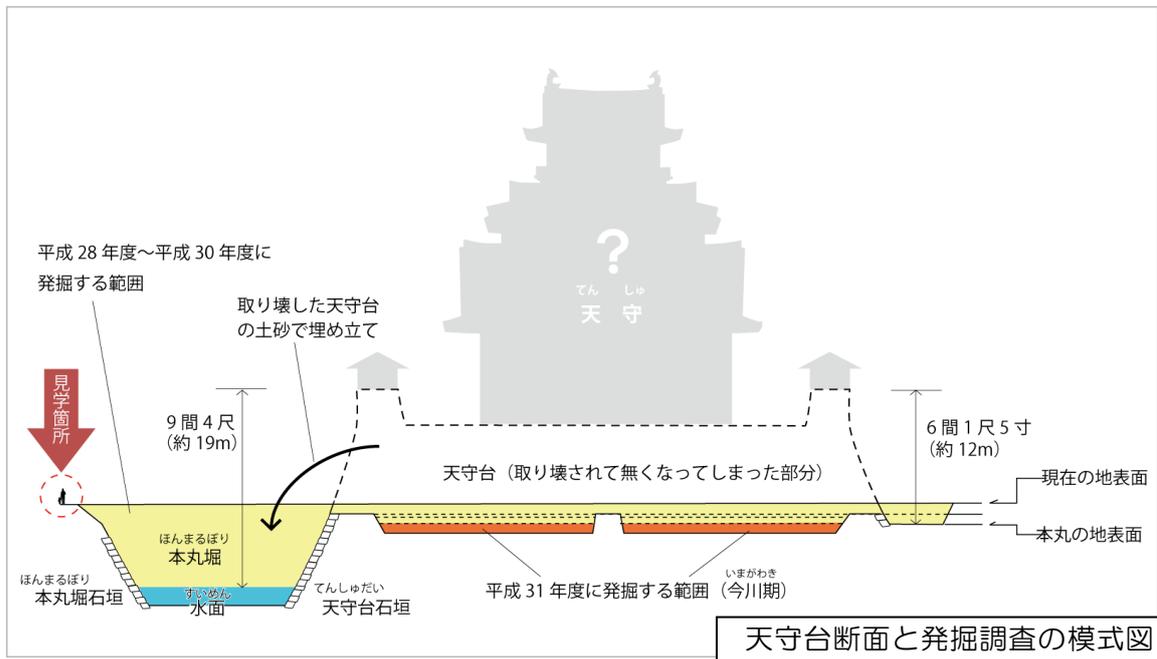
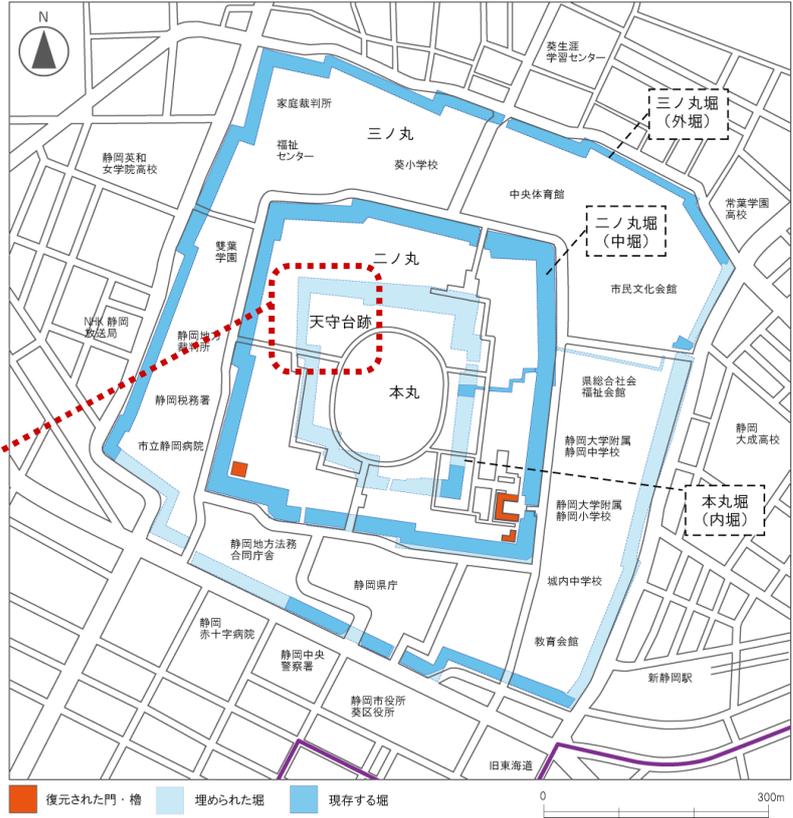
1 発掘調査の目的

駿府城公園は、かつての駿府城の本丸、二ノ丸の範囲に当たります。平成になってから、駿府城公園の再整備が順次行われており、天守台跡地も再整備が行われることとなりました。天守閣再建に対する要望もかつてよりあったため、再整備方針の決定に向けて、天守台の正確な位置や大きさ、構造、残存状況といったデータを得るため、平成 28 年から平成 31 年度まで 4 年をかけて天守台全体を発掘調査することとなりました。1 年目に当たる今年度は、天守台西側一辺を調査対象としています。

(右図) 駿府城全体図



(上写真) 東御門で展示されている駿府城模型のうち天守台部分(丸囲みが今年の調査対象)



天守台断面と発掘調査の模式図

2 これまでの発掘調査で分かったこと

江戸時代の大地震による崩落被害、明治 29 年の取り壊しを受けた天守台ですが、発掘調査で地表下には石垣が残っていることが発見されました。最も残りの良い所では、現地表から約 1m 下で発見され、そこから堀底の地表下 6.6m まで、約 5.6m の高さの石垣が残っていました。石垣は、場所によって積み方が異なっているため、何度か積み直されたと考えられます。江戸時代の天守台の絵図（「駿府城御本丸御天主台跡之図」静岡県立中央図書館蔵）の記録によると、石垣の下端で南北幅は 33 間 4 尺（約 66m）あったとされています。発掘調査の結果では、南西隅がわずかに調査区外まで延びているため（下図中 A）、正確な距離が計測できませんが、現在確認できる範囲で南北幅は約 67m あり、残りの距離を推定すると 68m 程となり、絵図よりも約 1 間 1 尺（2m）程長いことになります。来年度に調査区を拡張して南西隅下端を確認する予定です。また、天守台の向いに当たる本丸堀の石垣は、残っている部分が少なくて、下図中 B の部分以外は確認できません。

本丸堀の中は、ほとんどが石垣の石と、石垣の裏に詰められる^{こやし}拳大の石（栗石^{ぐりいし}）であり、出土遺物の量は多くありません。これまでの出土遺物には、瓦の破片約 150 点と貨幣 3 点があります。

3 これからの調査

全体を堀底まで掘り進めて、天守台の石垣を全て検出し、石垣の状態を調査し記録します。また、堀底にある遺物の種類や年代について、調査を進めていきます。今年度の発掘調査は平成 29 年 2 月までを予定しています。2 月 25 日（土）に今年度の最終的な現場見学会を実施する予定です。



（上図）平成 28 年度発掘調査区模式図



掘り出された天守台石垣。堀の中には埋められていた栗石（ぐりいし）が残っている。今後これらを取り除き堀底を出していく。



石垣工事に参加した大名らが付けた刻印が天守台石垣に残る。